

パネルディスカッション7

「消化管機能検査の発展：方法論から切り拓く消化管疾患の未来」

司会 岩切 勝彦（日本医科大学）

伊原 栄吉（九州大学大学院医学研究院病態制御内科学）

近年、高解像度食道内圧検査や直腸肛門内圧検査、粘膜バリア機能評価、放射線透過マーカーによる運動機能評価、超音波を用いた結腸・直腸肛門機能評価など、さまざまな検査法が開発され、消化管機能検査は大きく進展している。次世代内視鏡には、腫瘍や炎症の診療に加え、EPSIS（Endoscopic pressure study integrated system）に代表される「見えない機能の可視化」による消化管機能疾患への応用も期待されている。本セッションでは、まさに発展途上にある消化管機能評価の方法論から、消化管学の未来を展望する。